

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立膳所小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査対象 小学校第6学年

○調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

◇生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○調査結果の概要

《概要》

国語は滋賀県と全国の平均正答率を上回った。算数では滋賀県の平均正答率を上回ったものの、全国の平均正答率を下回る結果となった。理科は滋賀県と全国の平均正答率を下回る結果となった。全体的には、滋賀県の平均正答率と大きな差は見られず、やや上回る傾向が見られたが、全国の平均正答率と比べるとやや下回る傾向が見られた。質問紙調査では、ほぼ全国と同傾向の結果となった。本校では、特にタブレット端末の学習での活用について積極的に活用していると回答した割合が高かった。

《強み・弱み》

国語では、「書くこと」「読むこと」の正答率が全国平均を大きく上回った。文章全体の構成に着目して文章を整える力や、物語の全体像を読み取り登場人物の気持ちや相互関係等を考える力が強みと言える。逆に文中で漢字を正しく使うことに苦手な傾向が見られた。算数では、「図形」で基礎的な知識の定着が見られ、全国平均を上回った。その他に「データの活用」においても強みが見られ、表やグラフから必要なデータを読み取る力の定着が見られた。昨年度についても同様の強みが見られることから、強みにより定着してきていると言える。一方で、数量関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係について考察する「変化と関係」については、苦手な傾向が見られた。理科では、「地球に関する問題」で気温の変化や水蒸気の性質について基礎的な知識の定着が見られたが、「粒子に関する問題」で水溶液の性質について実験結果をもとに考察した内容をまとめることに苦手な傾向が見られた。

○指導の充実に向けて

- ◇ICT機器を活用した学習形態を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を目指す。
- ◇読書活動や作文活動を推進し、自分が考察したことを文章で表現する力を育成する。
- ◇漢字と計算の練習を継続的に行い、基礎的な学力を定着させると共に、学習習慣付けを進めていく。

R4教科に関する調査(小学校平均正答率)

